

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市あおぞらホーム		
2 指定管理者	社会福祉法人なのはな会		
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 3,004人(前年度比93%) 令和3年度 3,277人(前年度比79%) 令和2年度 4,141人(前年度比121%)		
	《事業》 児童発達支援事業		
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額		
	・ 指定管理者に支払った費用	37,779千円	(35,451千円)
	・ その他市が負担した費用	245千円	(0千円)
	《収入》		
	・ 使用料収入	42,803千円	(46,921千円)
	・ その他収入	0千円	(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 令和5年2月、指定管理者の協力のもと、障害者支援課で利用者アンケートを実施した。		

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に沿った事業計画が作成されており、職員も設置目的を適切に理解し、施設運営に当たっている。 利用者個々の特性に寄り添った療育を工夫して行っている。 近隣の保育所・幼稚園等の子育て支援機関と連携し、地域支援の充実にも積極的に取り組んでいる。	42/42
II 施設の運営管理体制	事業計画に基づいた運営がなされている。経理書類の作成及び通帳印鑑の管理についても適正に行われている。 また、各種マニュアルの整備や、毎月の避難訓練のほか、近隣の支援学校や社会福祉施設との合同訓練を実施しており、利用者の安全に配慮した運営に努めている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	冬は廊下と室内の寒暖差が激しいため、保護者より廊下の暖房設備設置を要望する声があがっており、寒暖差改善のためにエアコンを設置し、清掃・衛生管理・施設の保守点検は適切に行われており、利用者が快適に利用できる環境整備に努めている。	24/24
IV サービスの質の向上	サービス水準を確保するため、定期的な職員会議や研修により人材育成を図るとともに、情報共有に努め職員全体でのサービス向上を目指している。 説明の仕方を工夫し、わかりやすく丁寧な説明を心掛けている。	27/27
V 施設固有の基準	個別支援計画について、利用者1人1人の障害特性に寄り添い、詳細に作成している。 また、専門職員の配置を生かし、保護者からの健康相談に対応するなど、安心して通園できる環境を整えている。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	4/4

### 三 評価総括

**《指定管理者（社会福祉法人なのはな会）による自己評価》**

園長の異動があったが主任が中心になり職員の意見を聞きながら療育について、また親子通園の役割について深く考えてきた1年であった。コロナ禍で感染対策を継続してきたが保護者の理解と協力もあり大きな感染拡大には至らなかった。発達支援については、療育の理念や指針を基に根拠ある療育内容や保護者への説明をより丁寧に取り組む意識を高めてきた。個別支援計画やアセスメントシートについて見直しをし、子ども理解や支援について深く検討するために大切に取り組んできた。家族支援に関しては保護者の子どもの理解をすすめることや保護者同士の関わりのありようなど課題と感ずることについて検討してきた。アーチルからスーパーバイズを受ける機会があり家族支援への広い視点に気づきを受け、より具体的な本人支援と家族支援への学びを深めることができたと感じる。また、年明けから、リフレッシュデーや定期的な親子保育に取り組み、保護者自身が我が子や他児と楽しく遊ぶ機会や集団での子どもの姿などを共有し懇談する中で、子どもの育ちを実感できる機会を作り上げていくことは大切な時間であった。引き続き検討していきたい。

地域支援については、常勤として地域相談員が配置され活動の幅が広くなり関わる機関や相談が増えた。身近な子育て機関の現状を知ることやセンターの周知などの内部の課題があった。定期的な報告会をしてきたが、より法人内の方向性を共有し自分たちの役割を実行できるよう、アーチルや行政と連携し仕組みを作っていくことが大切であると考えている。

職員体制については、相互理解が進むことでより療育の充実が図れると感じた。また、子育て世代が増え、産休や育休に入る職員が続いている。職員の採用がタイムリーにできないことで、職員の不安や疲労にもつながると実感している。紹介業者などお金をかけて採用につながることで増えており財政面は厳しい状況であった。

**《施設設置者（仙台市）による評価》**

令和4年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。

発達支援においては、児童1人1人の発達や障害特性に応じた療育を行うための工夫がなされている。また、地域の子育て支援センターと定期的なケース検討会を行ったり、幼稚園・保育所等との情報共有や交換研修を実施するなど、地域の中で児童発達支援センターとして求められる役割を果たすため、積極的に地域支援に取り組んでいる。

家族支援においては、保護者との個別面談や勉強会を定期的で開催するなど、保護者の不安や悩みに寄り添い、相談しやすい体制を整えている。

以上により、利用児童への発達支援だけでなく、家族支援や地域支援を含め、安定した質の高い支援を提供し、良好で円滑な管理運営を行っていることから、総合的には高く評価できる。

**総合評価**

S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

**特記事項**

◎ 評価担当課(施設所管課):健康福祉局障害福祉部障害者支援課